令和４年１月31日
第　４９　号
発行　梅花流師範・詠範の会
会長本間雅憲
題字　初代会長・故加藤信三師
編集者（広報部）近藤俊彦
印刷所（資）由利印刷

梅花流師範・詠範の会事務局
倫勝寺（能代市）山田卓爾
TEL 0185-58-2302

観音の白き額に瓔珞の
影動かして風わたる見ゆ
～鹿鳴集より～
版画・池田修三
歌・會津八一

今を大切に

秋田県梅花流師範・詠範の会 会長
本間雅憲

新型コロナウイルスの発生から二年が経とうとしています。ワクチンは多数の方が接種済みのようですが、いまだにどこかで患者がでています。今回はオミクロン株という変異株で、ウイルスとの闘いはまだまだ続きそうです。出かけるときにマスクを着けることも当然のこととなりました。私自身、読経の際には外しますが、その前後は必ず着けるように注意しています。マスクを忘れず油断なくお過ごしください。

さて、前永平寺貫首・福山諦法禅師様が曹洞宗管長に就任されたころ、「過ぎ去った過去を悔やまず、やがて来る未来を恐れることなく、一瞬一瞬を懸命に生き、努力と感謝の生活を続けていく覚悟でございます。」このようなご挨拶をされました。

コロナ禍における現在、誰もが経験のない予測のつかない事態に混乱しています。また、この二年の間に病気や死が身近に感じた方も多かったことでしょう。

人として生まれることの有難さは両親がいてこそ、多くのご先祖様がいてこそです。ご先祖さまのひとりがかけても今自分がここにいることができないと思うと、何物にも代えがたい尊い命尊い体をいただいていると感じます。そしてこの命には限りがあります。限りある命だからこそ、生きている今この時がかけがえのない時間のはずです。今を大切に生きていきましょう。それが一瞬一瞬を懸命に生きることなのだと思います。さらに、私たちは一人で生きているのではありません。天地自然の恵み、人と人とをつなぐ絆で結ばれて生きています。日々の務めを果たし、努力を惜しむことなく、すべてに感謝の気持ちを忘れず、前向きに生きよとのお示しと思っています。心に刻み歩んでいきたいものです。

令和三年九月　十日　永平寺　福山諦法禅師様
令和三年九月十九日　總持寺　江川辰三禅師様
御遷化されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

追悼

鈴木道雄老師

令和三年三月十一日、潟上市天王・自性院二十九世重興大英道雄大和尚がご遷化なされました。

琴古流尺八鈴慕会宗家・青木鈴慕氏（人間国宝）に師事し、昭和六十一年には、詠讃歌と尺八の出逢い「心のハーモニー」を結成（秋田県梅花流師範有志「烏合衆」が梅花流の研鑽と普及を目的として集う）。国内及び海外にて数多くの公演を実施され、梅花流の普及と音楽的可能性の拡大に大きく貢献されました。

道雄和尚と鈴秋先生

山本郡三種町・松庵寺住職　渡邊紫山

私が秋田に来たのは昭和五十五年。本山で少しやっていた梅花流詠讃歌を秋田で始めることにした。道雄さんとは同時期に学び始めた。私が中学からずっとトランペットをやっていたこと、彼は尺八の大師範（竹号は鈴木鈴秋）であったことから気が合った。新潟の飛田先生の講習会は、泊りがけで参加者も多くて、夜の宴会は芸達者な秋田衆に拍手喝采であった。

「心のハーモニー」を始めたのは、鈴秋先生の提案だった。尺八と箏と詠讃歌の合奏である。曹洞宗の教えを敷衍（解り易く広める）する為、心のハーモニー公演を行った。それは秋田県内各地をはじめ、遠くはハワイ、そしてドイツでも演奏したのだった。詠讃歌を習っていた檀家さんたちの情熱は熱くて、どこの会場でも満席であった。今思うと私たちが歩んだ頃は良い時代だった。

沢山の思い出を残して、道雄和尚は旅立たれた。アイデアマンであり、実行力があって、みんなを幸せにしてくれた鈴秋先生だった。

鈴木先生との思い出

生田流箏曲清絃会三代目家元　足達清賀

思い起こせば、鈴木先生と私のお付き合いは、鈴木先生のお姉さまたちも私の母のところでお稽古をしておりましたので、先生が永平寺での修行を終えられて、清絃会にご挨拶にいらした時からでございました。

それからというものは、先生の素晴らしい尺八の音色に、清絃会の中で難曲などの免状を受けられたお弟子さん方のご披露演奏をなさる時にお手合わせしてくださり、本当に花を添えていただきました。

また、御詠歌とお箏をご一緒に合奏できるなど、本当に未知の世界を体験させていただきました。海外公演でもご一緒に演奏させていただきました。その時の御詠歌の皆様の音楽に対する素晴らしさも体験させていただき嬉しかったことを思い出します。

晩年には、「日本楽器の尺八・お箏・三絃などの素晴らしい音を、子どもたちにも日本人として経験させ楽しませてあげたい」と秋田市文化会館をお借りして「子どもワークショップ」で体験させ、そのうえ合奏も楽しめるようにと「秋田子ども和楽器合奏団」を設立するなどのご尽力をしていただきました。

そして、子どもたちの演奏が皆心一つになり上手にできた時の、先生の満面の笑みを浮かばせた嬉しそうなお顔は今でも忘れることができません。

鈴木先生、これからも私たちを宜しく見守ってくださいませ。

海外公演の様子

箏曲清絃会創立110周年記念演奏会の様子

◎鈴木道雄老師及び「心のハーモニー」の『同行』過去記事に関しては、第四・五・七・十一・二十六・三十一・三十三号をどうぞご参照ください。

★『同行』バックナンバー（秋田県宗務所ホームページ内）　soto-akita.com

県内特派師範による巡回講習報告

【期間】令和三年十月十八日(月)～二十八日(木)
◎浅田高明師範巡回寺院…鹿角市の恩徳寺様、北秋田市の新田寺様

次回は満面の笑顔で

北秋田市・正法院住職
清水道広

マスク着用での入店をお願い申し上げます。などなど随分と特殊なワードが飛び交う昨今です。私どもの世界でも新しいワードが誕生しました。お唱えの時はマスクを付けたほうが良いか？このマスクにまつわるエピソードは、数年後に思い出話として笑って話せるようになることを願うばかりです。

この度の県内巡回はマスクを着用しての講習会となりました。講員さん達、どんなにかお唱えしにくかったことでしょうか。ご不便を感じていることと思います。そんな中で、息苦しいねとか、マスク外してもよいのかな、などマスクの上からでも分かるような笑顔で話す場面もしばしば。来年は満面の笑顔でお会いできることを願うばかりです。

さて、今回私は講師として巡回させていただきましたが、同時に講習会をお願いした一寺院の講長でもありました。各寺院での講習会となりました今回の企画。教区単位での特派講習会では各寺院や、各個人のリクエストや質問がしにくいという状況があったかと思います。しかし各寺院での講習会としたことで、講師との距離も近づき、個人が質問やリクエストをしやすい環境が生まれました。うちの講員さん達も有意義な時間だった、贅沢な企画だよね、と仰っていました。今講習会を企画して下さいました秋田県宗務所様に感謝申し上げます。

一日も早い新型コロナウイルス感染状況が落ち着く事。マスクを外して笑顔で対面する事。旅行。たくさんの願いと共に、令和四年が素晴らしい一年になりますように。

※清水師範巡回寺院…北秋田市の宝勝寺様、能代市の清徳寺様・長慶寺様

二十年目のスタート

山本郡八峰町・正傳寺住職
村松良周

令和三年四月付けで初めて、梅花流特派師範を拝命しました。ですが、前年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、特派巡回が令和三年度は中止となってしまいました。デビューでいきなり躓いた感はありましたが、宗務所長老師はじめ、宗務所職員諸老師のご配慮にて、県内の御寺院様を巡回させていただくことができました。これは大変有難いことであったと思います。駆け出しの私にとりまして、新型コロナウイルス感染症による特派巡回の中止をただの中止とせずに、来年に向けて自分を高める期間とすることができたこと、また場数を踏む機会を与えられたことは何にも代え難いことでした。

私が今回巡回させていただいた御寺院様は、北秋田市の龍泉寺様・正法院様、由利本荘市の正乗寺様、横手市の香最寺様でした。方丈様方のことは存じ上げていましたが、梅花講員様は初めてお目にかかる方が多く、また各御寺院様によって事情が異なることもあり、最初は手探りの状態でした。先生方、また先輩師範のお示しを思い出しながら、限られた時間の中で務めさせていただきましたが、少しでも講員様方の為に有益な時間であったなら幸いです。

梅花流の門をたたいて二十年になりますが、新たなスタートを切ることができた気がします。梅花流師範として自身の技量を高めていくこと、併せてそれを正しく伝えていくこと、そして多くの方々から見られる立場になったこと、これらを踏まえ、改めて身を調え、心を調える、更には身を律し、心を律することが求められると強く感じました。今回の企画をいただいた宗務所長老師、関係諸老師、また会場主老師には有難い機会をいただき感謝申し上げます。来年こそはコロナウイルスを克服し、梅花流を通じて多くの皆様とご縁をいただけることを祈念いたします。

梅花のふるさと

～詠讃歌の生まれた風景〈その二十七　良寛さま〉

心優しい清貧の人・良寛（三）

良寛さま

暮れた山みち落葉みち
ころころ栗のいがの路
良寛さまはひきとめる
月が出るまで帰さない
暗いといがで辷るから
月読みのひかりを待ちて帰りませ
山路は栗のいがの多きに

作詞　赤松月船

◇　しずかな暮らし　◇

岡山の円通寺での修行を終え、諸国遍歴の後、良寛はすでに両親のいない越後に帰ってきました。しかし実家の山本家には身を寄せず、国上山中の五合庵や神社のお堂などに仮住まいの生活を続けていました。

五合庵に住んでいた頃の良寛の作と思われるものに次の一篇があります。

寒夜空斎の裡　香烟時すでに遷る
戸外竹千竿　床上書幾冊
月出でて半窓白く　虫鳴いて四隣禅か
箇中何限の意　相対するもまた無言

寒い夜に人気の無い部屋の中で、香煙立ちのぼるうちに時は移りゆく。戸外には千本の竹、床上にはいく冊かの書。月の光がさし込んで窓のなかばは白く、虫の声してあたりはひっそり。この境涯―限りない心中、向かい合っても言葉はない。

良寛は小さな石の地蔵を持仏としていました。末句の「相対」はこの持仏に向き合っていたのかもしれません。五合庵での静かな暮らしぶりがうかがえる詩です。

◇　人々との交流　◇

そんな暮らしの一方で、良寛には多くの友人・知人がいました。良寛の人柄を慕って生活の支えとなる食べ物をくれたり、宿を貸してくれる人も少なくなかったのです。

牧ヶ花村の庄屋解良家の当主・叔問もその一人で、良寛のよき理解者であり庇護者でした。ある日、解良家に良寛がしばらく滞在した時のことを記した文章があります。

師は余が家に信宿を重ぬ。上下自ずから和睦し、和気家に充ち、帰り去るといへども、数日の内人自ずから和す。師と語ること一夕すれば、胸襟清きこと覚ゆ。師はさらに内外の経文を説き、善を勧むるにもあらず。あるいは厨下に就きて火を焼き、あるいは正堂に座禅す。その話、詩文にわたらず、道義に及ばず。優游として名状すべき事なし。ただ道徳の人を化するのみ。

良寛が家にいるだけで、家中の当主家族から使用人までみな仲むつまじくなり、和気が家の中に充ちる。それは良寛が去ってからもなお数日続く。一夜良寛と語り合えばその心の清らかなことをしる。だからといって良寛はことさらに経文のことを言ったり、善いことをしなさいなどと訓誡めいたことは口にしない。台所で煮炊きをしたり、部屋で座禅したりしているだけだ。話をしても文学臭いことや道義めいたことは言わない。ゆったりとしているようすはなんとも言えない。ただ良寛の人徳が周囲を変えてしまうだけだ。良寛の逸話の中でもひときわ胸に残る話です。

解良叔問と同じように、良寛に私淑し親交を重ねた人に阿部定珍がいました。阿部家は五合庵に近い庄屋で、造り酒屋でした。定珍は良寛より二

小杉放菴画「一酔」

良寛詩の一節「久しく君と共に一酔を謀らんと欲せしも銭有る時節には相い逢わず」あなたとお酒を酌み交わそうと思ってきたのに、お金のある時に限って逢えないなんて、とユーモアたっぷりの句をもとに描いたもの。

良寛をよく知る人の記録に「師ハ常ニ酒ヲ好ム、シカリト云ヘドモ、量ヲ超テ酔狂ニ至ルヲ見ズ。銭ヲ出シ合テ酒ヲ買ヒ呑ム事ヲ好ム。汝一盃吾一盃、ソノ盃数多少ナカラシム」とある。

十歳以上年少でしたが、詩文の才能に優れ、五合庵を訪れては良寛と歌を詠み交わすことがしばしばでした。良寛から定珍に宛てたこんな手紙があります。

定珍老

今日、酒肴贈り下され、かたじけなく存じ奉り候。重ねて永日ご面談の上申し上げたく、今日日も夕暮れになり、使ひもいそぎ候間、早々。

正月三日　　良寛

意外に思うかも知れませんが、良寛はお酒が好きな人でした。この手紙は阿部家からの使いの者が良寛に酒と肴を届け、その帰りにもたせようと急いで書いて与えたもののようです。いずれゆっくりとお目にかかってお礼申し上げたいこともありますから、と述べています。

次は「頸城酒」（新潟県頸城地方産の酒）と題した良寛の歌で、定珍に贈られたものです。

栗の落つ日にしも君は来ますなり
さこそ我は思へけだしいかがあらむ

栗のいがが落ちる日に、ちょうどあなたはお出でになる。そのように私は思うのですが、あなたはいかがですか？

おそらく定珍がお酒を持って五合庵を訪ねた折りに、良寛が贈ったのでしょう。「あなたはいつも栗のいがの落ちる日に限って私のところに来ますねえ」と冗談めかして定珍に語っているように感じられます。もしかすると落ちてきたいがが定珍の体に当たるとか、いがですべって転んだとかの失敗があったのではと想像してしまいます。

五合庵で二人が交わした歌もあります。先ず定珍から良寛へ。

しまらくはここにとまらむひさかたの
後には月の出でむと思へば

帰ろうと思いましたが、もうしばらくここにとどまりましょう。そうすれば月明かりの時間となるでしょうから。そんな気持ちが読み取れます。

次に良寛から定珍への返歌。

月よみのひかりを待ちて帰りませ
山路は栗のいがの多きに

「そうですよ、月が明るくなるまでお待ちなさい。それでなくとも山路は栗のいががたくさん落ちていて危ないですから」。もしかすると定珍は五合庵へ来る途中にいがで失敗したかもしれないと思うと、この歌にも良寛のいたずらっ子のようなユーモアと優しさが感じられてきます。

貧しくつましい五合庵での暮らしだったと伝えられています。たしかにその通りですが、そうした生活の中にも人々との心温まる交流があったのです。

県内詠範さん三名よりご寄稿いただきました

私の梅花道

秋田市・蒼龍寺寺族
佐藤　文

うちならす鐘のひびきはそのままに
三世の仏のみ声なるらん

鐘を鳴らした後に残る響く音を「余韻」と呼び、またそれは仏道の教えを切らさないという意味でもあります。同じように息子たちの習う空手や剣道などの武道には「残心」という、相手や自分との関係を切らさず、残し続けるという作法があるそうです。言葉は違いますがどちらの道にも通ずる教えですね。私の梅花道も講員さん方、師範の先生方、詠範のお仲間、皆さんに支えられて助けてもらいながらここまで「余韻」を切らすことなく続けてこられました。また、恩師である東泉寺東堂・柴田弘一先生から教わる「日々丁寧に生きる姿勢」は私の梅花道そのものとなっています。

曲がりくねって上ったり下ったり、泣いたり笑ったり憤ったり、そんな細くて頼りない私の道ですが、今後とも切らすことなく続けていきたいと思っています。

養成所

由利本荘市・長谷寺寺族
浅田依子

コロナの影響が出始めてから、講習会も減り、更に個人的な理由から参加する機会もめっきり減ってしまい、梅花との距離が少し遠くなってしまっていました。しかし、養成所の皆さんと久々にお会いした瞬間に、再び一緒に練習できる場所がある事への嬉しさがこみ上げ、小さなスイッチがポチッと入ったような気がしました。

ある時仲間と、つい、二級詠範を受検することを約束してしまい、それまでののんびりした練習から必死な思いの稽古に変わりました。皆さんに励まされ、先生方からも懇切丁寧なご指導いただき、主人（浅田高明特派師範）の超スパルタ指導を受け、くじけそうになりながら梅花と向き合いました。とても大変で苦しいと思ったこともありましたが、振り返るととても楽しい日々でした。講員さんが「検定を受けていたときが一番楽しかった」と言っていたのが、やっと理解できました。他ではない貴重な経験をさせていただいたこと、検定に誘っていただいたお二人には心から感謝いたしております。

仲良し詠範さん三人で

学べば学ぶほど難しくなる梅花ですが、みんなでお唱えする楽しさや、仲間との同行同修の喜びをかみしめつつ、私なりにゆっくりと長く進んでいきたいと思っております。

これからも、皆さん末永くよろしくお願いいたします。

梅色の沼にはまってやってみた

北秋田郡上小阿仁村・福昌寺寺族
保坂千春

出会いは突然にやってきたのです。長い間、私には色んな意味で無理な事と思い込み梅花とは距離をおいていました。きっかけはお寺の改築に伴う落慶法要の準備でした。折しも宗務所様で梅花流指導者養成所が開設、入所する運びとなり、導かれる様に恐る恐る足を踏み入れることに。梅花との邂逅。

何もわからない、出来ないことだらけの私。時々ガッカリされながらも必死にノートを取り、先生の声に耳を澄ませ、覚えの悪くなった頭に喝を入れ、辛い正座に耐え、時には脚がつりました。ツヤ？イロ？アヤ？挑戦あるのみです、チャレンジャーですから。ベテラン講員さんに追いつきたい一心でかなり前のめりになりました。

あれから十二年、お陰様で共に歩めるご縁を頂きました。

「小さな努力で　人は変わっていく」故板橋興宗禅師様のお言葉が私の心の支えです。これまでも、これからも。　合掌

梅花流動画紹介

詠唱指導編　検索

ここだから話せる収録コボレ話

清水師範▶「撮影は私のiPhoneで行い、友人に編集を依頼。動画の繋ぎや拡大画像など解り易く仕上げてくれました。納得がいくまでテイクを重ねた影の苦労も感じていただけると幸いです」

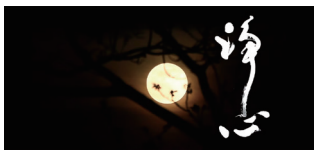
村松師範▶「私の動画撮影は２日間かけて行いました。音響職の経験がある山田卓爾師に助力を仰いで撮影をしましたが、光・音に関するところ、また原稿についても意見をいただき、技術やノウハウのない私にとりましては大変有り難く思いました」

☞曹洞宗宗務庁では、昨年十月から梅花流特派師範による詠唱指導の動画を「動画共有サイト YouTube」にて配信しています。その中で、秋田県の清水道広師範が「修証義御和讃」を、村松良周師範が「盂蘭盆会御和讃」を担当し、解り易い解説と実演を交えて講習をされています。

曹洞宗公式サイト「曹洞禅ネット」または YouTube 検索から視聴可能です。一堂に参集しての講習が中々難しいこのコロナ禍だからこその試み。ぜひ積極的にご活用ください！

☞皆さんは梅友チャンネルをご存知ですか？総視聴回数６万回に及ぶ、県内若手師範４人が手掛ける YouTube 動画です。洗練されたお唱えは勿論、流麗な書と丁寧に作られた見事な映像美で梅花流の可能性を更に拡げて魅せてくれます。気になるシルエットの正体は……皆様のご想像にお任せ致します。
今必見の動画チャンネル、ぜひご覧ください！

梅友チャンネル　検索



～梅友（うめとも）チャンネルより～

秋田県の曹洞宗僧侶【梅友会】による、曹洞宗梅花流詠讃歌（御和讃・御詠歌）のお唱えです。
梅花流の美しい旋律やお作法を多くの方に知って頂けるよう、詠讃歌を地元秋田県の美しい自然の風景と共にお届け致します。
一人でも多くの方々の心に響くものになるよう、精進して参ります。
詠唱作法等まだまだ未熟な梅友会ではありますが、最後まで聴いて頂けると幸いです。
よろしければ、チャンネル登録お願いします♪

梅花インフォメーション

●『禅を聞く会～曹洞宗秋田県宗務所・禅センター設立三十周年記念講演～』レポート

去る十一月四日、秋田キャッスルホテルにて『禅を聞く会』が開催されました。養老孟司さんの記念講演に先立ち、開会セレモニーでは、梅花師範による「三宝讃歌」のお唱えがありました。教典にありますが、実際に耳にするのが私は初めてで、とても新鮮かつ感動致しました。若手四人が主旋律、ベテラン先生方四人が副旋律。いつも慣れ親しんでいる「三宝御和讃」の明るい雰囲気とは違う、深みのある美しいハーモニーが会場を荘厳な空間に導き、講演の幕開けを盛り上げました。

いつの日か、今年九月に新設されるあきた芸術劇場『ミルハス』で梅花流秋田県奉詠大会が開催され、そこで「三宝讃歌」をお唱えできる日を心待ちにしながら、日々楽しく練習を重ねたいと思います。　合掌

（広報部・岩舘（いわだて）香央里（かおり））

「三宝讃歌」「まごころに生きる」を奉詠

師範8名によるハーモニー

表紙について

今号の表紙は、にかほ市が誇る木版画家・池田（いけだ）修三（しゅうぞう）のモノクロ作品をご紹介します。

池田修三は、一九二二（大正十一）年、秋田県にかほ市象潟町生まれ。由利高等学校の美術教師などを経て木版画家となります。一九八〇年代に銀行の通帳や企業のカレンダーなどに作品が採用され、秋田を中心に広くその名を知られるようになりました。二〇〇四（平成十六）年に八十二歳で亡くなるまで、情緒あふれる子どもたちの情景やセンチメンタリズムを感じる作品を創り続けました。

池田修三は、多色刷りによる彩り豊かな版画作品の他に、実は釈迦如来像や薬師如来、吉祥天、十大弟子など「仏」を題材にしたモノクロ作品も数多く残しています。その中でも一際印象的な表紙の作品は、新潟県出身で書家／歌人／美術史家の會津八一（あいづやいち）の歌がモチーフになっています。

歌意「仏の白い額に宝冠より垂れ下がっている瓔珞（仏の装身具）の影がかすかに動いている。ああ、早春の吹き抜ける風が目に見えるようだ」

會津八一は、本誌連載中「梅花のふるさと」でもおなじみ、同郷の良寛の歌や書に深く傾倒した人物でもあります。修三が彫った観音菩薩の静謐な佇まいと八一の心象が投影された見事な歌に、暫し味わいを感じていただけたら幸いです。

〈協力・にかほ市象潟郷土資料館〉

テレホン梅花　☎〇一八（八七三）七六七六（ハナミ　ナムナム）

【毎週土曜日にテープが更新されます】

◎今回は柴田弘一正伝師範のお唱えとなります。

【令和四年】

◆二月
- 五日　涅槃（和讃）
- 二日　不滅
- 十日　高嶺
- 十九日　紫雲（釈迦）
- 二十六日　観音（和讃）

◆三月
- 二日　彼岸（和讃）
- 十五日　香華
- 十二日　花祭（和讃）
- 十九日　歓喜（第一番）
- 二十六日　歓喜（第二番）

◆四月
- 九日　慈光
- 六日　浄光
- 十三日　三宝（和讃）
- 二十日　修証義（和讃）

◆五月
- 七日　伝心
- 十四日　報謝（和讃）
- 二十一日　同行（和讃）
- 二十八日　道交

◆六月
- 四日　梅花（高祖一）（和讃）
- 十一日　地蔵
- 十八日　慈念
- 二十五日　渓声（永平一）（総持一）

◆七月
- 二日　渓声
- 九日　新亡精霊（和讃）
- 十六日　無常（和讃）
- 二十三日　月影
- 三十日　盂蘭盆会（和讃）

◆八月
- 六日　迎火
- 十三日　追弔（和讃）
- 十二日　追善（和讃）
- 十七日　妙鐘（和讃）

◆九月
- 十三日　法灯（高祖）
- 二十日　法灯（太祖）
- 二十七日　連磨（和讃）

◆十月
- 四日　廓然
- 一日　影向（和讃）
- 八日　伝光（第一番）
- 十五日　伝光
- 二十二日　慶祝（和讃）
- 二十九日

〒010-0111　秋田市金足岩瀬字前山３　東泉寺　TEL018-873-2675